



# 本町ほのぼのだより 第20号

発行：中野区立本町図書館 中野区本町2丁目13番2号 TEL 03-3373-1666

発行年月日：平成26年8月30日 第20号

第20回 本町図書館 個性づくりテーマ展示

## クラシックを聴いてみよう！

本町図書館では、『文化・芸術・芸能』に関する資料を、絵画や音楽、工芸、伝統芸能など幅広い分野にわたって収集・展示をしております。

第20回目となる今回は、「クラシックを聴いてみよう！」と題して、「クラシック音楽」をテーマにした展示をお届けします。

クラシック音楽を聴くのは好きだけど、実はよくわからない…という方も多いのではないのでしょうか。確かに、知識がなくても、クラシック音楽を楽しむことはできます。しかし、さらに深い知識があれば、今よりもっと楽しむことができます。

今回ご紹介する図書を参考に、理解を深めてみてはいかがでしょうか？



**展示場所：本町図書館 2階書架**

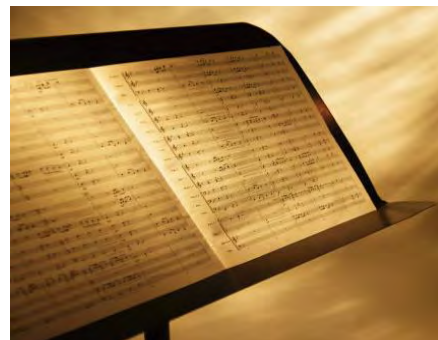
**展示期間：平成26年8月30日(土) ～ 10月30日(木)**

※ 展示資料は貸出もできます。

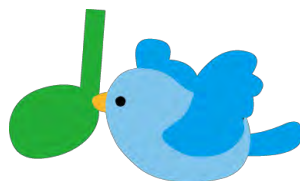


## クラシック音楽とは

クラシックは、英語で「古典的・古風な」という意味があり、必ずしも音楽だけに使われる言葉ではありません。西洋音楽史でクラシックと言うと、本来は18世紀から19世紀に隆盛した古典派音楽をさします。日本においては、この時代に確立された音楽の理論を基本にして作曲された伝統的な音楽を〈クラシック〉と呼んでいます。



## クラシック音楽の歴史



### ○中世・ルネサンス



西洋音楽史では、15世紀から16世紀に作られた音楽を「中世・ルネサンス時代の音楽」といいます。その中心をなすのはポリフォニー(多声楽)による声楽で、特に宗教曲が多いことが特徴です。この時代の音楽をまとめて「初期音楽」ともいいます。

宗教曲とは教会音楽とも呼ばれ、ミサ曲やモテット、グレゴリオ聖歌が中心になっています。グレゴリオ聖歌は歌詞にラテン語が使われ、楽器の伴奏はなく、男性の声によって一本の旋律が歌われます。初めはシンプルだった聖歌の旋律は、時代を経るにしたがって、少しずつ複雑になり、ミサをより感動的にしていきました。

※ルネサンスという言葉は「再生」を意味し、ルネッサンスと表記されることもしばしばあります。

### 注目の作曲家

・**ジョスカン・デ・フレ**：ルネサンス時代最大の巨匠と呼ばれ、ミサ曲をはじめとするラテン語の宗教音楽、シャンソンなどの世俗作品、器楽曲などさまざまなジャンルの音楽を作曲しました。

・**ジョヴァンニ・ダ・パレストリーナ**：教会音楽の父と呼ばれ、『教皇マルチェルス6世のミサ』が代表曲です。パレストリーナの作る教会音楽は、歌詞を大切にしながらとても荘厳なものでした。

他：トマス・ルイス・デ・ビクトリア、ジョン・ダウランド、モンテヴェルディなど

### ☆ルネサンス時代のおすすめ CD

- ・『グリーンズリーヴス～シェイクスピアの時代の音楽』村治佳織 C04-0444 本町図書館
- ・『バック・トゥ・ルネサンス～聖母マリアの賛歌』シャンティクリア C08-3279



中央図書館



## ○バロック

西洋音楽史では、16世紀から17世紀半ばまでの音楽を「バロック音楽」といいます。

ルネサンス時代の芸術は、安定した構図で大変規律正しい均等のとれたものであったのに対し、バロック時代になると、装飾が多く形がいびつ（曲線が多い）になってゆきました。そしてそれは当時の民衆には退廃堕落したものに映り、蔑視する意味で「バロック」と呼ばれていました。

バロック音楽の特徴は、音楽と人間の感情を表現する「オペラ」が急速に進歩したことです。

※バロックの語源は、ポルトガル語の「バロッコ」(=ゆがんだ、不揃いな真珠)から来たと言われています。

### 注目の作曲家

・**ヨハン・セバスティアン・バッハ(=J.S. バッハ)** : 後期バロック音楽の巨匠で、音楽家バッハ一族の頂点となる作曲家です。当時はオペラ以外の様々なジャンルを作曲していました。

☆**J・S. バッハのおすすめ CD** 『マタイ受難曲 BMV244』リヒター C08-0469 本町図書館

・**ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル** : 約40曲にのぼるオペラ、32曲のオラトリオのほか、管弦楽曲や協奏曲、宗教曲など幅広いジャンルの作品を手がけていました。代表作は『メサイア』です。

☆**ヘンデルのおすすめ CD** 『メサイア合唱曲集』ヘンデル C07-0551 本町図書館

他：アントニオ・ヴィヴァルディ、ゲオルク・フィリップ・テレマンなど



## ○古典派

バッハの死(1750年)からベートーヴェンの死(1827年)までを「古典派音楽」といいます。

「音楽の都」として知られるオーストリアの首都ウィーンは、18世紀後半ドイツ語圏の文化や芸術の中心になっていました。当時のイタリアやフランスで流行っていたオペラなどが導入され、若い音楽家達にとっては憧れの場所でした。「古典派」という時代が完成し、3人の作曲家「交響曲の父：ヨーゼフ・ハイドン」「神童：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト」「楽聖：ベートーヴェン」が人生の大半を過ごした場所でもありました。

※この3人がウィーンで活躍していたこともあり、古典派は「ウィーン古典派」とも呼ばれています。

### 注目の作曲家

・**ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト** : 神童としての名声がありながらも最期は困窮した生活の中、35歳の若さで生涯を閉じたモーツァルト。短い生涯の間に約50曲の交響曲、20曲に及ぶオペラ、未完となったレクイエムなど、幅広いジャンルの曲を残しました。

☆**モーツァルトのおすすめ CD**

『赤ちゃんのためのオルゴール』大坪治彦監修 P05-0094 本町図書館

『赤ちゃんのためのクラシック』大澤功一郎監修 C09-0308 本町図書館

・**フランツ・ヨーゼフ・ハイドン** : ウィーンを中心に活躍し、100曲以上の交響曲を作り、その後の交響曲の様式を完成に導いたことから交響曲の父と呼ばれています。

他：ベートーヴェン、カール・フィリップ・エマヌエル・バッハなど

☆**ハイドンのおすすめ CD** 『ハイドン四重奏全集(2),(3)』ザロモン弦楽四重奏団

C04-0229 (2)・C04-0230 (3) 本町図書館



## ○ロマン派

「ロマン派音楽」とは19世紀のヨーロッパで始まったロマン主義の時代に生まれた音楽を指します。ロマン主義とは、感情を重視して表現する精神運動を指し、18世紀までの伝統的な形式を重視する「古典主義」と対をなしています。音楽史上大きな変化の時代といえるでしょう。



18世紀後期まで、音楽家は貴族や教会に保護され、音楽を一般市民が楽しむことはできませんでした。しかし、ブルジョアジー（商工業を中心とした有産階級）が富と権力を持つようになると、音楽家の保護制度は衰退し、不特定多数の聴衆に向けて作曲活動が行われるようになりました。こうして自由を得た音楽家達は、安定した収入と認知度を得るために独創性を重視し、個性をアピールするようになります。

### 注目の作曲家

・**フランツ・リスト**：当時大人気のヴァイオリニストであったパガニーニの超絶技巧に影響を受け、彼もまたピアノ上での超絶技巧を編み出しました。

☆**リストのおすすめCD** 『超絶技巧練習曲「夕べの調べ」』リスト他 C05-0587 本町図書館

・**フレデリック・フランソワ・ショパン**：ピアノ独奏曲に特化した作曲活動を行い、特にノクターンは今日でもよく知られています。

☞ノクターン（夜想曲）は、実はアイルランドの作曲家ジョン・フィールドによって生み出された楽曲表現です。彼のノクターンを収録したCDも中央図書館に所蔵しておりますので、この機会に聞いてみてはいかがでしょうか？

→『ノクターン全集（全20曲）』ジョン・フィールド作曲 C05-1461(2) 中央図書館

他：シューマン、シューベルト、メンデルスゾーン、マーラー、ドビュッシー、サティなど

※19世紀末~現代音楽開始までを「近代音楽」「後期ロマン派」と区分する場合があります。



## ○現代音楽

20世紀以降から現在までの音楽を指しますが、正確な区分ははっきりしていません。しかし、「無調（十二音技法）」というあらたな調性を編み出したシェーンベルクが活躍し始めた1910年前後を境とするのが妥当とされます。この後から、これまで音楽の概念として確立されていた「クラシック」の破壊と変化が始まり、現代音楽独特の大胆奇抜な楽曲が生み出されていきます。



### 注目の作曲家

・**ジョン・ケージ**：作曲家の意図しない音響（不確定性の音楽）を求め、プリペアドピアノ（弦に物を挟んだり乗せたりする）による演奏や、ピアノの蓋を開けるだけ（観客のざわめきやノイズを音楽とする）の曲『4分33秒』等、非常に前衛的な楽曲を生み出しました。

・**武満徹（たけみつ とおる）**：近代日本を代表する作曲家。琵琶や尺八等の日本伝統の楽器と楽風をオーケストラに取り入れ、独自の音楽を確立しました。

☆**武満徹のおすすめCD** 『ノヴェンバー・ステップス[他]／小澤征爾』

武満徹 C09-0442 本町図書館



## ヴァイオリンについて



クラシックで使用される楽器はたくさんありますが、今回はその中でもオーケストラの中心的役割を担うヴァイオリンについてご紹介したいと思います。

ヴァイオリンとは、ヴァイオリン属と呼ばれる楽器群の中で最も小さく、音域の高い楽器です。弦楽器中最も重要な楽器であると言われ様々な演奏に用いられます。特にストラディバリウスなどが有名です。

### ～ヴァイオリン・トリビア～

- ・音の決め手はニス** ヴァイオリンの表面にはニスが塗られていますが、これはヴァイオリンを作る工房によって調合方法が違います。そして、この調合方法によって音の良し悪しが決まるそうです。ストラディバリウスを超える楽器が現れないのも、このニスの調合方法が極秘中の極秘で、男系の家伝だったからだとか。
- ・色々な素材** ヴァイオリンは同じ木で出来ているように見えますが、実際は何種類もの素材が使われています。木だけでも黒檀やカエデなど、ヴァイオリンの部位によって使い分けられています。それだけでなく昔は弦に羊の腸がつかわれていたり、現代でも弓に貝や白馬の尻尾が使われていて、陸海両方の産物が使われていることになります。因みに馬が白馬限定なのは他の色では切れやすいからだそうです。
- ・弓に塗るもの** ヴァイオリンを演奏する前に、演奏者は弓の毛に**松ヤニ**を塗ります。それは弓を弦の上で滑らせるためではなく、引っかけて擦り、音を出すためです。固形になっているのでなかなかべたつきません。
- ・右利き左利き** ヴァイオリンは右手と左手で大きく異なる役割をしています。では、左利き用のヴァイオリンはあるのでしょうか。いいえ、左利き用は**ありません**。左利きの人も同じ楽器を演奏します。
- ・恐怖の飛行機！？** ヴァイオリンにとって最も緊張する移動方法は**飛行機**です。何故なら飛行機の機内は気圧や温度、湿度や振動などが絶えず大きく変化し、楽器への負担が大きいからです。最悪の場合、楽器にひびが入ったり割れてしまったりします。それを極力避けるため、演奏者は飛行機に乗る前に弦や弓を緩めておいたり、絶対に荷物棚に置かずに離着陸時の大きな振動の際には抱えて持っていたり工夫しています。

#### 参考文献

- ・『大人の楽器入門』長沼由美/二藤宏美著 ヤマハミュージックメディア 763ナ 本町図書館所蔵
- ・『名曲が語る音楽史』田村和紀夫著 音楽之友社 762.3タ 本町図書館所蔵
- ・『はじめての音楽史 増補改訂版』久保田慶一ほか著 音楽之友社 762ハ 南台図書館所蔵
- ・『西洋音楽史』岡田暁生著 中央公論新社 762.3オ 南台図書館所蔵
- ・『クラ女のショパン』室田尚子ほか著 河出書房新社 762.3シ 中央図書館所蔵
- ・『クラシック音楽の世界』田村和紀夫著 新星出版社 762.3タ 本町図書館所蔵
- ・『初めての人のバイオリンの弾き方』まがいまさこ著 西東社 763.4マ 本町図書館所蔵
- ・『一冊でわかる楽器ガイド』広兼正明監修 成美堂出版 763イ 本町図書館所蔵





# 展示図書リスト

書名	著者	出版者	出版年	分類記号
クラシックの名曲解剖	野本由紀夫・編著	ナツメ社	2009	760.8 /
至高の音楽	百田尚樹・著	PHP研究所	2013	760.8 ヒ
CDでわかる音楽の科学	岩宮真一郎・著	ナツメ社	2009	761 イ
一冊でわかる楽典	坂口博樹・編著	成美堂出版	2009	761.2 サ
一冊でわかるクラシック音楽ガイド	後藤真理子・監修	成美堂出版	2007	762.3 イ
クラシック音楽の世界	田村和紀夫・著	新星出版社	2011	762.3 タ
未完成	中川右介・著	角川マガジンス	2013	762.3 ナ
ピアニストたちの祝祭	青柳いづみこ・著	中央公論新社	2014	762.8 ア
クラシックの核心	片山杜秀・著	河出書房新社	2014	762.8 カ
図説指揮者列伝	玉木正之ほか・著	河出書房新社	2007	762.8 タ
知識ゼロからの世界の10大作曲家入門	吉松隆・著	幻冬舎	2012	762.8 コ
ヴァイオリン&ヴァイオリニスト	音楽の友・編	音楽之友社	2014	763.4 ハ



## クラシック音楽について調べてみよう！

クラシック音楽は奥深い世界。今回展示している図書のほかに、クラシックに関する図書はたくさんあります。また、図書のほかに、雑誌記事、新聞などでも調べられます。いろいろな情報源を使って、調べてみましょう。

### 1. キーワードを使って調べよう

次のキーワードを参考に、「クラシック音楽」について調べよう。

西洋音楽	音楽理論	音	楽器	器楽合奏	宗教音楽
劇音楽	声楽	作曲家	指揮者	オーケストラ	オペラ

### 2. 基本的な情報源を使って調べよう

辞書・事典類を使って、テーマについての基本的な事柄を押さえよう。

書名	請求記号	所蔵館
音楽大事典	760.3 オ	本町図書館
新編音楽中辞典	760.3 シ	本町図書館
標準音楽辞典	760.3 ヒ	本町図書館

### 3. 図書を探そう

図書館では、関連分野ごとに図書が並んでいる。[テーマの棚]を実際に見て、図書を探そう。

音楽	760	音楽史	762	楽器	763
ヴァイオリン	763.42	宗教音楽	765	声楽	766/767

図書館のホームページやOPACを使って、図書を探そう。



【中野区内に図書があるか】

●中野区立図書館ホームページを使って調べよう。

→ <http://www3.city.tokyo-nakano.lg.jp/tosho/index.html>

【東京都内に図書があるか】

●東京都立図書館のホームページを使って調べよう。

→ <http://www.library.metro.tokyo.jp/>

【国内に図書があるか】

●国立国会図書館のホームページを使って調べよう。

→ <http://www.ndl.go.jp/>



### 4. 雑誌・新聞記事を探そう

●中野区立図書館で所蔵している主な雑誌

タイトル	所蔵館
レコード芸術	中央・上高田・南台・鷺宮図書館
音楽の友	中央・野方図書館

●中央図書館参考室の雑誌新聞記事索引データベースを使って調べよう

日経テレコン21	1975年からの日経4紙(経済・産業・金融・流通)の新聞全文や企業情報などが検索可能。
聞蔵IIビジュアル	朝日新聞のほか、知恵蔵・AERAなどが検索可能。
MAGAZINE PLUS	雑誌記事や論文情報検索が可能。
WHO PLUS	歴史上の人物から存命中の人物について検索可能。
官報情報検索サービス	1947年から当日までの官報が検索可能。
D1-Law.com	判例などの法律情報が検索可能。

### 5. 関連の機関や施設を調べよう

東京文化会館

〒110-0007 東京都台東区上野公園 5-45

TEL03-3828-2111

民音音楽博物館

〒160-8588 東京都新宿区信濃町 8 番地

TEL03-5362-3555

浜松市楽器博物館

〒430-7790 静岡県浜松市中区中央 3-9-1

TEL053-451-1128





# 本町図書館からのお知らせ



本町図書館個性づくり展示「クラシックを聴いてみよう！」はお楽しみいただけましたでしょうか。これからもみなさまの身近にある、お役に立つ図書館、新しい発見のある図書館を目指して、スタッフ一同取り組んでまいります。



## ☆おはなし会☆

毎週土曜日 11:00～11:30  
第4水曜日 15:30～16:00  
児童室にて開催中！  
第4土曜日は乳幼児向けの  
「おひざでだっこのおはなし会」

## ☆個性づくり展示☆

- |          |              |
|----------|--------------|
| 第一回・岡本太郎 | 第十一回・歌謡曲     |
| 第二回・落語   | 第十二回・美術館     |
| 第三回・映画   | 第十三回・仏像      |
| 第四回・伝統工芸 | 第十四回・茶道ほか    |
| 第五回・音楽   | 第十五回・歌舞伎     |
| 第六回・デザイン | 第十六回・手紙      |
| 第七回・浮世絵  | 第十七回・表現する人   |
| 第八回・舞台   | 第十八回・建築      |
| 第九回・ジブリ  | 第十九回・サフカルチャー |
| 第十回・工芸   |              |



第十六回～第十九回の個性づくりの本は展示してあります。

児童コーナー

## 秋のこども会

平成26年10月4日(土)  
11:00～12:00



## ☆9月・10月の休館日のご案内☆

<9月>  
8日の月曜日  
9日(火)・10日(水)・11日(木)・蔵書点検日  
26日(金)・館内整理日  
<10月>  
14日の火曜日  
31日(金)・館内整理日



「本町ほのぼのだより」  
第21号は11月1日  
発行予定です。

